

## 第4回 ロジスティクス研究会

|    |               |      |               |
|----|---------------|------|---------------|
| 日付 | 2009年2月21日(土) | 時間   | 14時30分～16時30分 |
| 場所 | 一橋大学          | 参加人数 | 9人            |

### 研究会の内容

#### 研究発表

**氏名**： 稲葉 順一

**所属**： 一橋大学大学院 博士前期課程

**テーマ**： 「荷主企業による航空貨物輸送業者の選択行動に関する経済学的考察」

#### 要旨

従来、日本発着の国際貨物輸送の主な担い手は、海上輸送であった。しかしながら、近年において、金額ベースでの航空化率(全輸送機関のうち航空機によって輸送された貨物の量または金額)は、1985年当時が輸出入ともに10%程度だったが、現在では約30%に達している。今後20年間では、世界の航空貨物輸送市場の大きさは、3倍増になると予測され、国際物流における航空貨物輸送の重要性は大きくなっていくと考えられている。

国際航空貨物の輸送方式には、大きく分けて機能分担方式とインテグレーター方式が存在する。近年、アジア地域で国際航空貨物需要が増大する中、機能分担方式とインテグレーター方式の両輸送方式間で競争が見られるようになった。荷主企業の長期的なロジスティクス戦略、サプライチェーン・マネジメント(SCM)の構築という観点から、こうした輸送方式に関する航空貨物輸送市場の動向は、荷主企業全体の経営戦略に強く影響する要素となりうる。

機能分担方式とは、航空フォワーダーと航空会社によって構成される輸送方式のことである。航空フォワーダーとは、自らは航空機を持たないが、発荷主から着荷主までの輸送責任を負う事業者のことを指す。そのため、荷主企業に代わって航空会社への輸送手配を行うほか、空港と荷主間の陸上トラック輸送、さらには空港における通関手続き等を行う。航空会社は、自ら航空機を保有する実運送事業者であり、原則空港間の輸送責任のみを負う。他方で、インテグレーターとは、航空フォワーダーと航空会社の両機能を併せ持つ陸空一貫輸送を実施する事業者のことを指し、インテグレーター方式とは、自社保有の貨物専用航空機や陸上運送用のトラックおよび陸上配送システムを活用する輸送方式である。

本発表では、アジア地域における日本発着一般貨物の輸送市場において、機能分担方式とインテグレーター方式の両輸送方式が存在することを把握した上で、まず輸送サービスの供給側の視点から、両輸送方式の輸送効率性について取引費用経済学の理論的枠組みを用いて比較を行う。航空輸送スペースの確保時および空港内での貨物積み替え時において、機能分担方式で市場取引費用が発生している一方で、陸上集配送スケジュールと航空機の運航スケジュールの擦り合わせ時において、インテグレーター方式で組織内取引費用が発生していることを指摘する。

次に、輸送サービスの需要側の視点から、アジア地域に事業展開を行う荷主企業の属性が、各企業の輸送方式の選択行動にどのように影響しているかについて、実証分析の結果を示す。なお、分析結果より、日本から航空貨物を輸出する荷主企業は、多くの意思決定基準が存在する中で、特に運賃水準、速達性、定時性の 3 つの基準をもとに輸送方式を選択していることが明らかになっている。

さらに、これらの議論を踏まえて、荷主企業の輸送方式選択に対応すべく、機能分担方式とインテグレーター方式の両輸送方式は、制約条件が存在する中、それぞれどのような輸送サービスを提供しうるのか、どのような戦略を採るべきなのかを明らかにする。

以上